

二股上池（ふたまたうわいけ）



諸元

貯水量	606 千m ³
満水面積	10.0 ha
受益面積	194.6 ha
堤高	17.4 m
堤長	280.5 m

二股上池は、二股下池と同じ地域をかんがいする親子池で、二つを総称して二股池といます。上池・下池とある場合、下池の方が大きいのが普通ですが、二股池では逆になっています。その理由は、先に下池が五反田川ごたんだがわを水源として完成した後、上池は新たに鴨部川かべがわを水源として完成したからです。

二股上池は幾度の嵩上げ工事を経て現在のような規模の池になりました。天保7年(1836年)の池記録によると、堤の高さ約7m、長さ約122mとあり、現在の半分以下の規模でした。安政3年(1856年)に最初の嵩上げ工事が行われ、堤の高さが約5m高くなりました。明治に入り、新たな嵩上げ計画が水利総代達によって進められましたが、様々な要因が重なり、着工できずにいました。明治20～30年代になると、新しい条件が二つ加わり、嵩上げへの要望が一段と高まりました。一つは、さとうきびの栽培が輸入品によって減少し、畑が水田に作り変えられ水の需要が増加したこと、もう一つは明治27年(1894年)の大干ばつ以来、数回続いた干ばつで水不足への不安が大きくなったことです。その後、明治41年(1908年)に日露戦争戦勝記念の事業として嵩上げ工事が行われ、ようやく現在の規模に達しました。



二股上池



築造由来の石碑